

---

# **ナルト&サスケにチート（？）転生 ~死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々**

リョク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナルト&サスケにチート（？）転生→死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々

### 【Zコード】

N1018N

### 【作者名】

リヨク

### 【あらすじ】

よくあるチート転生をする事になった一人の少年。ギャグで終るのか？それともシリアルズになるのか？

## プロローグ・ナルト（前書き）

すみません！！何故か知らないんですけど書きたくなる衝動に駆られました！

プロローグ・ナルト

「突然じやが転生してもらおう」

「はつば？」

皿の端にこねるお糸をんごをうねねた。

その眼はよく光りておつ頬は3つあつ宛あるつあつゝ。  
くりこの長身で鬚を生やしている初老だつたが筋肉が物凄く、気持  
ち悪さよりも本当にこんな筋肉が實際にあるんだなあと思わせる…。

頭には角、どうみても角、角、角！！

卷之三

その瞬間私たちは肉塊に成り果てた。

「ようやく黙つたか」

いいえ、黙らさせられたんです、貴方に。

「まあ良い、ワシは見ての通り神だ」

違つだろ、アンタは神様じやない。

「まあ、それでな・・・」

その後、私たちは長い話しの時間中に何千回も肉塊にされた。よく壊れなかつたな、心が。

「御主等にはNARUTOの世界に転生してもう、そつちのはナルトに、じつちのはサスケじや」

拒否権は無いんですね、でもこのままじやあチート能力をもらえない。

隣に居る馬鹿は「忍術！？」とか言つてゐる.....。

オタッキーなやつ等ならハーレムとか言つんだらうけど.....普通人である私たちが憧れるものはやつぱりその世界だけの力だらう、

B E A Hなら死神の力とか完現術とか.....。

まあ私も使つてみたいんですけど.....。

「取り合えず、欲しい能力を言つてみよ！－ただし無限の剣製と王の財宝は駄目じや、そしてデメリットもあるぞ、まあn arutoと型月関係だけじやし、色々制限もあるがの」

駄目か、私は王の財宝と騎士は徒手にて死せずが欲しかつたんだが

デメリットに関しては注意すれば.....。

「ん~、俺はFate/ZEROの狂戦士の宝具、とゲイ・ボルグ  
後はイザナギを使っても失明しない万華鏡写輪眼かな?後は剣の才  
能と忍術の才能で」

コイツ、特に考えないで決めやがった!!

「分かったぞ、貴様も早くせよ

分かりました、だから拳をこっちに向けるのは止めて下さい。

「ならアルトリア・ペンドラゴンが持っていた宝具のエクスカリバーにアヴァロン、カリバーンにブライウエンを下さい、後はナイト・オブ・オーナーとリボルバーを一個下さい、輪廻眼にギルガメッシュの黄金率、才能は剣の才能と忍術の才能で、アヴァロンの不老効果は20超えてからでお願いします」

「お主、中々せこいで

「別に良いですよ」

「あ、俺も追加していいですか?」

「良いぞ」

ヤバイな、あいつ能力を追加しやがりました。

「キャスターの魔術技術を下さい」

「良いぞ、魔力じゃなくチャクラじゃがな  
チートすぎますね。」

「なら私も「貴様は後一個しかできんぞ」……なら話を聞いてください」

そう言ひてあの神様?の耳、耳何処にあるんだ?まあ良いです。

「……貴様、それこするか?」

「無理ですか?」

「いや、ぎつぎつ可能じゃ、じやが本当にその能力しか出来んぞ」

「別に良いですよ」

「よし、じゃあ転生じやあああ……!」

あの向でこいつに拳を向けてるんですか?

お願いします、逸らして下せー…………やめてくだ

あ、転生したようですね。  
何故分かるつて?

今、暖かい水の中に居ます、それが答えです。

そして今スッゴイ頭痛いです！！！

ものすごく時間がたっています。

ようやく生まれたようです。

そして仮面の男がクシナさん、基お母さんから九尾を取り出しました。

この後お父さんが屍鬼封尽を使って九尾を封印するんでしょうが……せませんよ！！

全て遠き理想郷！！！  
アヴァロン

これを使って九尾とお母さん、お父さんを閉じ込めます、もちろん仮面の男は外します。

「何だコレは！？！」

仮面の男が入るうとしていますが無駄です！！これは第七次元までの干渉を全てシャットダウンする代物です！！

人柱力であるお母さんを完全に癒して治し、その後お父さんによつて完全に封印、私は人柱力にはなりません！！

でも大丈夫です！！私とお父さんがお母さんを守りますよー！！

…………あれ？九尾が大人しい。

「…………クシナ、この九尾はナルトに封印する事にするよ」

何ですとー！？

その後、結局原作どおりとはいがなくても九尾は封印されました、わたしに……。

三年後

1

私は今ものすごい落ち込んでいます。

んじゃあここまわるやーー。

きました。

ました。

卷之三

流石に全てが同じなわけではないです、両親の特徴はちゃんと持つてそしてセイバーっぽくなつたんです。

これでも男の子です。

かなりショックです！！

『まあ詰めるんじゃな』

「嫌です／＼！！！」

中に居る九尾にすり回請されるしまつやつてられません——！

「ハジメテシカニハ、アリスル」

「行つてきまーすー！」

お母さんにそう言われて私も返しかゃいます、これは癖です。  
絶対に男らしく悪になつてやります！

『いや、無理じゃな

私は家を出たあと、川原を歩いていました。

「はあ、本当の口癖と女顔はどういかならないんでしょうか？」

『だから無理じゃん、諦めよ』

「諦め切れませんよ！！私はの容姿で」の口調なら間違いなく女の子、もしくはオカマデス！！私はもつとだんでいになりたいんです！！マスター、カミュをロックで頼む、って言うような大人になりたいんです！！はあどぼいるどになりたいんです！！！」

『無理じゃ、諦めよ、今のままだつたらオカマ直行じゃ』

「嫌です！！私にだつて好きな女の子が出来て付き合えばコスモ小宇宙が出来るんです！！男の娘じゃない！！ダンディでハードボイルドな男に！！」

『…………がんばれ』

ついに諦めましたか…………、ハーレムとは行かなくてもやっぱり彼女くらいは欲しいですね…………。絶対に手に入れて見せます！！

「お嬢ちゃん…………ハアハア！！僕の家に…………ハアハア！！来ないかい…………ハアハア！！」

何ですか？アレ…………明らかに危ない人が居ますよ。

「いや、俺男何だけど…………」

「なにい！！？男の娘だとお！！？それはそれで…………ハアハア！！！やつぱり一緒に来ないかい？」

『おい、何で黙る?』

「去勢します」

南無

取り合えずあの子を助けましょう。

「ちよーー放せーー！」

おお！！新技が決まりました！！  
変態は木にぶつかり、気絶しました！

「取り合えず、コレで」

そう言って取り出したのはクナイ

「えいツ！」

「アッ――――――――!」

アハ！ 良い悲鳴！！

残酷だな

九尾は股を押さえながらそう言いました、精神世界って簡単に分か

るんですね。

「…………セイバー？」

…………何故それを知つてゐのか、まさかサスケか？  
そつ思いながら後ろを見ました。

「…………輝夜？」

髪は短いですが東方の輝夜姫でしたね。

まさかの予想外でしたね、まさかサスケも男の娘に成つてるとは……。

取り合えずサスケには髪を伸ばすように言いました。  
いつか女の子になる薬を開発してあげますからね！――

そつ思いながら家に帰るつと思いました。

「…………すまんの！」

…………家中から三代田のおじいちゃんの声？

取り合えず耳をつけます。

「と、言つわけで滝隠れの七尾の人柱力を預かる事になつたのじゃ、ミナト、お主に引き取つてもいいたい」

「良いんですけど……なんですか？」

「ナルトならばきっとあの子の心を開けるはずだからな、わしがもう少し早く行つておれば…………」

死亡フラグ？

プロローグ・ナルト（後書き）

次回はサスケの話

## プロローグ・サスケ

あ、俺現サスケ。

取り合えず転生に成功したのはいいんだけどさあ……。

「何で輝夜？」

何で容姿が東方の蓬萊山輝夜？

俺は現在男の娘……。

ちなみに写輪眼は使えません、どうやら修行で会得するらしいです。万華鏡に関しては普通のを会得した後すぐに会得できるらしいです。

ちなみに宝具のアロンダイトは俺が望めばすぐに出てきました。ですが戻せません。

ナイト・オブ・オーナーやフォー・グローブンはコントロールで  
きます。

「ちくしょーーー！」

そつ叫びながらヨーヨーを振り回します。

ナイト・オブ・オーナーを使えば即席の宝具になります、凄いです  
ランスロット。

取り合えずコ一コ一も宝具になってるけど、実際重さが無いから大した武器にはなってないんだよなあ。

取り合えず鉄製のコ一コ一でも作るか。

「…………四代目火影が生きている事はびっくりしたな」

「今はナルトか…………。

アイツがアヴァーロンを欲したのってコレに使うためか、なんだかんだで一番考てるんだよな。

「…………あの時俺は泣いてばっかだったからな、せめて前世の分を返さなきやな」

前世での恩返し、まあ簡単なものかもしけないけど何度も命を救われた分は返さなきやな。

取り合えず俺は川原の近くに行く事にした。

「お、お嬢ちゃん…………」

「げ…………」

取り合えずその後の事はナルトがやってきてスクリューキック、偶然水月に直撃、その後ヴィーナスの刑…………

「ふう～、何かスッキリしましたー！」

そう言って血で濡れているクナイを川に捨てる、俺を攫おうとした変態は男の大事な物を持って病院に…………

南無。

「まさかセイバーみたいになつてるとは思わなかつたよ」

「いえいえ、まさか貴方が私以上に女顔だなんて……フフッ……！」

「聞こえてるぞ」

ナルトの性格は前世と同じく月姫の琥珀さん、もしくはFateの  
カレイドルビーだ。

しかも本気で魔法少女を作りつとした前科を持つていやがる。

洗脳と調教に関しては鬼才、まあこれは後で分かつた才能だからし  
ょうがないけど……。

最初の才能はありえない、つか異端じつうか異常すがる。

「髪の毛は伸ばしてくださいね……絶対ですよ……」

あの顔は絶対に何か企んでいる、間違いない！  
だが俺にはアイツに勝つ要素がない、成長して戦う事はできるだろ  
うがあの状態になつたら……

「ワカリマシタ」

でも逆らえない……、なんてチキン体質なんだ……。  
恐らく俺は絶対に勝つことなんて出来ないだろう……。

「そりいや九尾は？」

「ちゃんと賭けましたよ、憎悪に囚われた殺意なんて軽いだけです

し

「やつぱりか……」

何だかんだで最強なんだよなこの化物は……。

「じゃあまた会こましょつ、貴方はどうせハーレムを作るんでしょ  
うナビ私が必ずそのフラグをへし折つて見せますーーー。」

「不吉な事を言つなーーー。」

本当にここつは何を考えているか分からぬ……。  
つか恐ろしい、何で俺がハーレムを作る前提なんだよ

「喋つてますよ」

「しまつたーーー。」

やっぱ、何時の間にか喋つていた。

「やつぱり貴方は素直なんですね」

「あんたは嘘吐きだけどな」

やつぱり前世から変わっていない。

「では、せよなりです、死亡フラグには氣を付けてくださいこね

そつぱりナルトは去つてこぐ。

「…………さうだよな、浮かれる時間は終わりだよな…………」

転生した余韻はもう終わりだ。

どうやつて原作を崩壊させていくか……

子供の扱いは子供？（前書き）

今日は短いです。

## 子供の扱いは子供？

取り合えず私は庭で遊んでいます。

まあお父さんから教わった木登り練習法をやっています、これが意外と難しい！！

私のチャクラがあつとこつ間に無くなつてこさまか。

「アハハハハ～、これは大 变！！DEATHネ！！」

ただ繰り返してこるとどんどん使うチャクラが減つてこきます。この調子で強くなりまよ～。

「アハ～」

「ナルト～～～～何やつてゐてばね……」

「見て分からないんですかお母様～～～藝術ですよ～～～」

そう、私が木登りするときに失敗した木をクナイで抉つたり削つたりして彫刻を作つてるんですよ～。

「どうですか」「ノーノー熊さんですよ～～～」

「…………凄いっじばね～、でもナルト～もひつひつこのせしづや駄目だつてばね～～～」

怒られました。

今度からせぬ嘲ります。

「さて、後はコレにニースを塗つてと」

「コレで完成です！！」

まあまだ時間がかかりますが……。

「さて、楽しみですね～」

同じ人柱力ですからね、そりやあ楽しみになりますよーー！

と、ついさっきまで楽しみにしていましたが今見たのではちょっとな  
えました。  
ここまで怪我が酷いとは思いませんでしたからね。

傷口の化膿は見られませんがやはり酷い怪我です。

それ以前に

「私を見る目がかなり怖かったんですけど」

『お主が幸せなのが気にくわないんじゃないのか？』

あ、九尾。

まあ気にくわないのは分かりますね。

「同じ人柱力なのに私が幸せだからですね」

『やはりな

まあ分かりますよ、こへり四代田の息子と云つても私は九尾の入れ物ですからね。

「…………少し考えすぎましたかね?」

『いや、どう見ても考へてないじゃね?』

「甘いですね、九尾。封印されている間ぬるま湯にでも浸かってい

たんですか?」

こんな事言つまでも無いんですけどね。

「戦場では考えるな、感じろです」

さて、あの子に会いに行きますか!

『お主は向時も馬鹿じやの』

「馬鹿で良いですよ、そっちの方が楽しいですしね

それに前世の能力がさらによパワーアップされますし……今の私は本物の化物ですね。

人柱力なんて尾獸が無かつたら普通ですし、ですがそれでも私は化物なんですよね~。

「まあ教えてあげましょつかね」

『七尾も可哀想になるな…………』

失礼ですね。

「…………なんで」

「何でじゅありませんよ、これかの子にならうからパンダ  
ントですか」

何で私に優しくするの?だまされないよ、ビラセ裏切るんでしょ?

「…………流石にその田で見られるのはちょっと辛いんですけど……」

何なの、あなたは…………。

「君と同じ化物だよ」



# お嫁さん確保！！（前書き）

今年最後の更新です。

お嫁さん確保ーー！

「また封印か……」

先ほど封印から開放されたときに洗脳され、そしてすぐに開放された瞬間の光景……。あれは美しかった、何百に分かれる光……。

「ビハセヒの小僧も……」

「お腹減りましたね～」

「……？」

何じやこの小僧……ワシを見てお腹減りましたね～、じゃと？その皿を止める！－！ワシは食えんぞ！－！明らかにワシを食用としてしか見ておらん！－！

「わしは喰えん！－！分かったか小僧！－！」

「大丈夫ですよ～、生きているものは大抵喰える自信がありますか  
ら～」

「やめり！－！かじるな！－！」

駄目だ」イツは……色々と教育しなければ……

「どうわけだ、七尾……」

「まさかお前がこんな子供に扱われるとわな、一尾の狸が見たら笑う」

「大丈夫じゃ、今なら笑われても動じない自信がある」

「何があつたのだ」

「ワシの価値観を否定するような化物じゃ」

そつ、ワシすら恐れる（食物連鎖的な意味合いで）化物の頂点が今  
のワシの宿主……。

「本物……なんでこうなってしまったのかのよ」

まあ今はあの鞆の光に当てられてワシの心を癒してあるがのあ  
本当に困ったやつじゃのあ……性格はまだ良い方じゃが……。

「キャー……可愛いです……！」

「何この娘可愛いです……私の夢である魔法少女計画の前段階です……！  
褐色系美人です……！」

「放して……」

「いやです……フウちゃん可愛いすぎです……食べてしまいたいくらい  
ですよ（性的な意味ではなく食物連鎖的な意味合いで）……！」

「何か怖い……」

あ、私の癖が出てしました。  
でもフウちゃんってやわらかいし美味しいしそうな匂いですし……フ

フフフ

まあ六割方力二バリズムは皿肅してますよ、前世での話しだすが。

「怖くないですよ~」

「ナルト、犯罪者みたいだつてばね」

「失敬な……！」

「酷いですお母さん……私は単純にフウを私の嫁さんにしたいだけな  
のに！」

「酷いですねー。私は単純にフウを私のお嫁さんにしてみたいだけなの!」

「え？」

「ナルト、この子氣に入つたの？」

あれ？言葉にしていましたね、ですが本心ですかから！

「ええ、そりやあ」こんなに可愛いい子を私のような女顔で童顔で……（泣）」

あれ？ 目から汗が.....うう。

「わ、私で良ければ……」

「ありがとうございます!!」

『…………で、後悔しているのか？』

『後悔はしたる、じやが……』

「憎しみなんでものに縛られている貴方では私には勝てませんよ、  
九尾」

「化物は喋らない」と言つのは嘘ですね、最近の化物は喋りますかね、私のよ

『ナルトの相棒になつた事は間違ひではない』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1018z/>

ナルト&サスケにチート（？）転生～死亡フラグから逃げ続ける怠惰な日々

2011年12月31日18時54分発行